

東海道第五十宿。

東海道五十三次

水口

みなくら

東海道中でも珍しい三筋の通りがある。水口宿、古い面影のある細い通りがきれいに三本並んで独特の雰囲気である。城に碧の水をたいたえたい城、遠州作の城、碧水城も美しい。天保一揆の記念碑もこの地方の江戸時代をしのぶ史跡。

街の甲にある本陣附近



東海道
水口
谷物十宿

この宿は三百六十日旅入にとせう汁の飯をすする所なり」と万治版東海道名所記には書いているが、広重は干瓢を干す女を描いている。

水口宿は天正十三年(一五八五)に大岡山に築かれた岡山城の城下町。関ヶ原の戦いの後に落城、寛永十三年(一六三四)徳川家光が上洛する際の居館として、新たに水口城が築かれ、

廣重 画



水口はその城下町として栄えた。

見どころ
芭蕉句碑…水口は芭蕉の故郷伊賀に帰郷する時、

江戸、京を往来する時などにしばしば立ち寄ったため、門人友人が数多かった。

磨崖仏…野洲川の河原に突き出した岩に石仏三体が刻まれている。

料又旅館創業元禄十三年(一七〇三)老舗旅館